

特許情報収集による知的財産創造のための 発見的価値創造の手法の開発

奥原研究室 M1 小野田成晃

Agenda

- ❖ What progressed?
- ❖ Results
- ❖ Problems
- ❖ How does it solve
- ❖ What should I do?

What progressed?

- ✿ 1.情報分野G06の特許100件を取得して単語をDBにセット
- ✿ 2.CCRとBCCを試す、前述の2ルールを試す、PCAを試す
- ✿ 3.電灯分野H05Bを対象として同じく取得
- ✿ 4.手順2をこちらにも適応する

Results

- ❖ 情報分野だと、単語種が1万ほどだったので、これだとDMU50個に対して、次元数が大きすぎる
- ❖ ほとんどの効率値が1になった
- ❖ =>元の頻度行列が0ばかりのスパースなものだから

Problems

- ✿ 情報分野はあらゆる分野に応用できるため多くの単語種が含まれていた
- ✿ このため含まれる単語にルールを発見できなかつた
- ✿ この状態であるとルール1, 2とも出力に大きな違いがなかつた

How does it solve

- ✿ 分野を情報(G06)から 照明関連(H05B)に変更
- ✿ =>単語種が一万から6253まで削減できた
- ✿ 効率値も以前より偏りがでた
- ✿ PCAを使った場合は分散も増えた、また単語の重みの分布も現れた (前回はほとんどスペース)

What should I do?

- ❖ 単語数（次元数）が減れば効率値にばらつきがあるので、特許数を増やしつつ、単語種が減るような実験を行えばルール発見につながる？
- ❖ 単語数フィルターや次元圧縮手法を試す